

四国遍路

四国中央市、新居浜市、西条市、今治市
松山市、久万高原町、砥部町、内子町
大洲市、西予市、宇和島市、愛南町
(遍路道のある市町を掲載)



第四十四番札所 大宝寺参道

四国遍路とは、弘法大師（空海、774～835年）ゆかりの四国八十八箇所霊場を巡拝（遍路道：全長約 1,100km～1,400km）することをいう。

四国遍路の由来としては、^{えぼら}荏原庄（現松山市恵原町）の長者、^{えもん}衛門三郎が弘法大師の後を追って四国内を巡ったことが始まりとの言い伝えがある。

一番（徳島県 霊山寺）から八十八番（香川県 大窪寺）の全 88 箇所を巡拝するため、国内外から多くの巡礼者が四国各県を訪れている。また、近世から近代にかけては、病気の平癒を願って、ハンセン病に罹患した人々等が巡礼の旅に出た。

四国では、巡礼者のことを「お遍路さん」と呼び、昔からお遍路さんを温かくもてなす「お接待」の文化が根付いている。

お遍路さんというと、白装束姿で「同行二人」（同行二人とは、弘法大師と常に共にいるという意味がある。）と書かれた笠などを被り、金剛杖をついて巡礼する歩き遍路の姿を思い浮かべるが、最近では、自家用車などの交通機関を使って巡礼する人が増えている。

現在、四国八十八箇所霊場と遍路道をユネスコの世界遺産に登録しようという働きかけが行われており、平成 26（2014）年には開創 1,200 年を迎えた。しかし、同年、「お接待」の文化を否定するように、特定の外国人を排除する内容の貼り紙などが休憩所や札所で見つかった。これまで全ての人を温かく受け入れてきた四国遍路の精神が損なわれ、人権侵害にあたる可能性があるとして、新聞等でも大きく取り上げられた。

【外国人を排除する内容の貼り紙事件】

平成 26（2014）年、四国遍路の休憩所等に特定の外国人を排除する内容の貼り紙が見つかった。四国各県の調査により、札所などにも同様の貼り紙や書き込みがあることが分かった。本県でもいくつかの休憩所などで、お遍路さんの交流のために置かれている「お遍路ノート」等に見つかった。